

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成30(2018)年  
**12月号**  
通巻580号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成30年12月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製本  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



鳥取城址 あじさい邑 山崎波留茂さん撮影(秋の一泊文化行事報告・4頁)

平成3(1991)年12月23日 降誕祭法話より

## 『やわらぎの黙示』出版記念

法主 矢追日聖 (満80歳)

傘寿の記念に  
健康な姿を見て頂く

皆さんおはようございます。早朝からこんなに沢山おいで頂き、本当に恐縮でございます。お蔭様で満八十歳でございます。私は若い時から身体が弱い体質で、父親は八十歳で亡くなっているし、こんな歳まで命が得られるとは想像もつきませんでした。今朝もつくづく過去を振り返って、色々感慨にふけておりました。皆さん方の前でこうしてお話が出来るのは非常に嬉しいことでございます。

約四十余年の間、色々な出鱈目なことを勝手に喋りまくって今日まで参りました。とにかく八十歳になったということで、こうして皆さんの前に立つておるのですから、まだ少しは命を頂けるのかなと思っております。今日は別にお話申し上げることもございませんが、健康な姿を皆さん方に見てもらったら、それではありがたいんです。

亡くなった柴地(則之)さんから機関紙に書いて欲しいと要望があって、文字数など編集の都合に合わせて、その時々で思惑で書いたものが色々蓄積しています。ぼちぼち私も高齢であちらの世界へ近づいて来たし、纏めようという話も出ました。それは結構なことだけれども、まだ生きてるんやから急ぎも慌てもしないでええやろと、その程度に思っておいたところ、今度『やわらぎの黙示』という見出しで、私の昔の寝言みたいな内

容を編集してくれました。

二十三日の今日が発行日として間に合うようにと、係りの人には非常に苦勞をかけました。その人達に対して本当に心から感謝申し上げます。今までこうして纏めたものを私の名で出版したことはありませんが、八十歳の傘寿の記念として創って頂けました。それについて今日はよもやま話でいいます。

## 『やわらぎの黙示』に 書かれてあること

四十余年の過去の宗教的な歩みというのは、一口二口で申し上げることは出来ませんが、この本にある程度纏められました。これは第一冊目で、中身は大体、大倭とか私個人の本質的な、基本的なことだけが編集されており。皆様方の個人相談の霊的な問題とか、霊障害の病気が治ったとか、そんなくだらないことを最初から出してもらうと、ちょっと大倭の意味が変わってくるので、その方面は第一回目の本では極力避けてもらって、大倭の基本的なものだけが出ております。

昭和二十三年頃は、終戦直後の社会情勢を背景とした内容でございまして、えらいどキチガイやなあと思われような面も沢山ございます。例えば光明皇后さん、聖徳太子さん、奇稲田姫命とか、いわば世間の人が一生懸命に信仰して拜んでおられる神さんをつかまえて、自分と対等な友達みたいに書いておる形です。しかし、私は真真正正に書いていただけなんです。

例えば光明皇后さんなんか一番身近ですけど、いわば私の隣にお姿のないお姫さんです。大倭の今のこうした形が出来ておるのは、ほとんどが光明皇后さんの心なんです。社会福祉の仕事

や生活共同体の問題、また昭和六十二年度に病院も出来ましたが、これは全部光明皇后さんの指図でございまして。今日も女の方が沢山いらっしやるけども、私は光明皇后さんともその方達と同じ様な立場で接しています。そんなことを言うと東大寺あたりのお坊さん方には叱られるかも知れませんが、どうもね。

あるいは須佐緒命や聖徳太子だって、皆さんが偉い神さんとして崇めておる人なのに、私は我か俺かみたいに心安く書いておりますからね。

先に亡くなった人ではあるけれども、肉体を持った人間であった時にはご飯も食べはったし糞も小便もしはったと思う。たまたま昔に産まれて早く死んでいるだけで、現在の私達と同じことなんですよ。ところが時代が下がってくると、古い人だからと皆が持ち上げてしまつて、偉い神さんに仕上げてしまふ。霊界における人はそんなのと違ふんですよ。生きている時と同じなんです。

私はそういう感覚ですから、この矢追日聖というやつは大ぼら吹きやな、だいが自惚れやな、と思われれるでしょう。非難轟々だと思ふけれどもしよがな。光明皇后さんがなんぼ偉いといつても私と対等なんです。

そういう霊界の人と現界の人とが親密関係にある為に、どんな仕事もはかどつていくんです。結局、縁がある人、因縁の深い人が今の時代にまた生まれて来て、ここで一緒に仕事をして行くように仕組まれているんですね。今度出版された本の中にはそんな面があつて、本当に増上慢な書き方が沢山出て来ますけれども、現在の私の人間的な個性としては、すまんなと思つていますよ。

名前にしたつて、日聖と言われたんですよ。日聖の聖と言つたら増上慢のかたまりですよ。日蓮宗は大体「日」のつく名前を付けております。けれ

ども日蓮宗の坊さんを全部見ても聖という字は使いません。日聖なんておりません。ところが難儀なことに、霊界の聖徳太子にこの名前を付けよとやかましゅう言われるからしようがない。

それで宗教法人の仕事をするようになってから、私は日聖という名前にしたんです。これはね、自分でも気になるんです。手紙なんかでも日聖って書く度に、おもしろくないなつていつも思うんですよ。私は昔は隆家という名前なんです。昔の名前がいいなと思つているんやけど、戸籍も日聖になつてからからね。名刺を渡す時でも、正直なところえらい気にしています。日の聖みたいな名前の人世の中におりません。受け取つた人が氣イ悪くするやろうなとかね、私の人間心ですよ。いつでも私はそういうような気持ちになつていってますよ。だから今度出版された本でも、霊界に通じている人が読んでくれたら理解出来ます。けれどもただ知識だけで読む人であれば、かなり抵抗がございまして。いわゆるキチガイですからね。

その中に私の人間個人としての人柄とか、人間性とかそんなものも沢山自分では書いておりますから、矢追日聖というのは平凡な人やつたなど、その意味においては楽しんで読んで欲しい。えらそうに聖徳太子とか光明皇后とか言つてるけれども、霊界から出て来て言わはることを正直に書いてはんのやなど。

その程度に読んでもらつたら私は非常に嬉しい。

## 宗教の行き方

宗教的な内容については聖徳太子が色々教えてください。けれども現代の宗教団体のような歩み方、行き方については、光明皇后さんがほんとに

小姑みたいに細かいことうるさいんですよ。特に宗教人というものは増上慢が最もいけないと言わね。

喜寿の七十七歳の時は、記念に拝殿を創つてもうりました。こんな立派なもんを建ててもうらうてね、非常に嬉しくもあるし恐縮もしているんですよ。私が死んだ後まで残るとしても、百年、二百年経ったら潰れてしまうもんですからね。建物そのものじゃなくて、創つてくれた人達の心が嬉しいんですよ。

けどやっぱりただでは出来ませんし、お金が必要ですよ。誰がなんぼ、彼がなんぼと出してくれてます。だから事務の方では記録にとつてくれます。そんな時に世間ではよく誰が十万円、誰が百万円寄付したとか書いて並べる形をとりますね。そうすればよけい金集まんねん(笑)。ところがそれはいかんと、無慈悲やと光明皇后さんが言われるんですよ。

例えば誰々さんがなんぼ出したと見える形にしておきますと、人間にはややこしい心理があるんですよ。そんならわしも寄付せなあかんとか、あの人なんぼなら自分はいくらせならんとか、心ないことになって来ます。そうなればその人の厚意を落とすんです。徳がなくなっていくんですよ。だからうちの霊界の光明皇后さんは、そんな無慈悲なことはするなと言われるので、ここは何もしておりません。大倭というところはそんなところですよ。

私が宗教で行くという最初時から、神興(みこじ)に乗ったあかんとや言われています。神興はえらいさんとして担がれて乗るといふことで、それは絶対いけない、とにかく一般の人と同じ立場で仕事せえと。また御簾(みかたびら)の内に入ったらいけないと言われています。お寺やったら内陣(うちまじら)というんですかね

一段高いところに決めてありますわね。

けれども、この拝殿ではこうして、かえってあんたらが畳敷いて、わしはこうして板の間におるんやからね(笑)。うちの霊界の人は、指導する立場の者が底辺の一番下におれと言われるんですよ。そういうようなのが大倭の教えでね。私はちよつと阿保で抜けています。だから霊界の人から言われた通り素直にやっています。

私が必要な弱い肉体を持っているのに命があるというのは、霊界の人達のおっしゃることをそっくりそのまま素直に私が受け取って、行動に移しているからだと思っています。というのは霊界の人は現界においては肉体のある人を通してでないと仕事にならないし、また、それがないと救われないことになるんですよ。だから肉体を持つている我々と霊界の人が交流することで、我々も霊界の人も良くなる。両方が良くなるんですよ。

それに宗教団体になつてくると、何か知らんけど形が必要になつてくるんやね。例えば坊さんなら色んな衣を着てはりますわ。インドは暑い国やから日本のようなあんな大きなものは着ないのだけれど。大倭もひとつの宗教団体で、服装なんかでもどうしたらええのか。

この(私の着ている)服装は古代人の労働服です。儀式、行事の装束と違いますよ。日々生活しておる時の労働服です。私が大倭教の教祖やから立派なもの着ているなんていうのは全く違うんですよ。ほんま言うたら、袖口に鈴が付いているんですよ。足でも鈴を付けるんですよ。古代社会ではなで鈴を付けるかという、今みたいにこんなに開けてないですよ。山ばっかりでしょ。オオカミとか色んな獣が沢山おるから、そういうものから守ろうとして鈴を付けるんですよ。体が動いてチャランチャランと金属の音がすると、オオカミでも

逃げて行く。けど今の社会で、私は鈴は付けてません。そこへ道中の安全と仕事をするのに楽なように幅の広いズボンをはいてましたが、現代では袴にしています。とにかく、そんな細かいことまで言われるんですよ。

皆さん方は、そんな意味を含めて大倭というところは面白い宗教やなど、その程度の認識を持つてもらったらそれで十分やと思う。

お蔭さんで、人間として満八十歳のここまでほんまによく生きられたもんやなあと自分で自分なりに感心しています。これは一つは霊界の人達の気持ちを自分が受け取って、霊界の人と仲良うして今日まで来たということだと思わんですよ。

### 利益信仰も否定はしません

今日は連れ合い(鈴月かあさん)がおりませんが、今ちよつと寝とこ牢へ入ってますねん(※大倭病院に入院中ということ)。ということはやっぱりどっか何かあったんでしよう、覗してると思ふ。あちらの別荘で心の垢を拭き取っておると思ふんですよ。仏教でも女性には五つの障りがあると經典に書いてますけど、やっぱり女の人のというのは男みたいな訳にいかんとこがあるんですよ。長年私と連れ合いで一緒にいるけれども、神さんの目から見ると、濁ったところがあるのやと思わね。

でなかつたら今日もここにちゃんと座っているはずなんやけどね(笑)。あつちもこつちもくだらんことを考えるんやな。今日の祭典でもどないしとるやろか、誰が来とるんやろかとか、直会演芸会の時でも着物着て行くんかいな、袴着て行くんかいなとかね、現在も思ってますやろ。

ここで皆さんとお目にかからないけども、実は向こうで元気になってますからご安心ください。年

が明けたら健康な顔でお目にかかると思います。本の発行に関して、特に野草社の石垣(雅設)さんにはご苦労おかけいたしました。また大倭印刷の方も、本当にスタッフ全体に対して心からお礼申し上げます。

あとまた二冊目、三冊目と出ると思いますけれども、第一回目的内容は、基本的なものがほとんどです。

二回目以降には、昔、新聞に「大倭千一夜」を書いたんですけども、そんな面も編集されると思います。ある程度、現世利益もなければ、皆さんも楽しみがないですね。じつと見とつたら、神さんのお徳をもらって喜び、それによってまた信仰を深めていくということもありますからね。

私は口では「ご利益信仰はいけない」と言ってます。けれども、ご利益信仰に囚われてはいけないという意味なんです。宗教そのものは、人間個人の人間形成の問題です。人間として良くなつていくよう修養するのが宗教の世界なんです。生きていく人間だけやなしに、肉体の持たない人間も霊界におるんやから、その人達とお互い仲良うして、人間的向上を計ってゆくというのが宗教の本質なんです。

けれどやはり現実の問題として、霊界で苦しんでいる人が現界の人に助けを求めて出て来る。それがいわゆる霊障害です。その靈魂によって、病気になるったり災いが起こってくることもある。そんな時には霊界の人を鎮めてゆけば、現界の人も助かる。ここに来ておられる人でも霊障害の病気が治った人は沢山ございます。

けれどなんぼ治ったか、ある一定の期間が過ぎたらみんな死ぬんやから一時的なものです。永久に神さんの力で生きると考えてもらつたら困る。病気というものは自分の中の故障で、死ぬこ

とは決まっておるんです。病気が治って一生懸命喜んでもらつても、やがて死ぬ日がくる。けれども、一時的に助かった喜びを持つことによって、霊界の人と現界の人との交流の現実を体験してもらつたら私はありがたいと思う。だから私は現在病気の相談もやっております。

やはりご利益を求めて来る人は多いです。それは人間としての本質ですから私は否定しませんが、反面宗教の世界ですから、自分の人間的修養をすることが大事だという気持ちさえ持つてもらえたら、霊界の人にお願ひして幸せになつてゆきたいと思う心も結構だと思ふんです。ご利益信仰はあかんと言つておられるけれども、本心はそうでもないことも皆さん方も知つておいてもらつたらいい。

二回目、三回目的本にはまたそのような世間の人々が喜ぶ内容も出て来ると思うんですが、この第一冊目の本は大倭の経典のような気持ちで、内容をゆつくり読んでもらつたら何かの為になると思ひます。

今日は、皆さん早朝からお出で頂いて非常に嬉しく思ひます。ありがとうございました。今日は健康な姿を皆さん方にみせるのが一番大事なことでございます。今後皆さんと交流していきたいと思つておりますので、宗教の世界の人やとか、法主さんは偉い人やと思つてもらつたら困るんです。あんた方と同じように、朝ご飯食べて、けつまくつて糞もしてきた。途中小便近うなつて走るようになったらかなんと思つて、朝みな出してもんは出してね(笑)。

皆さんと同じ人間同士の心安い関係においておつき合ひしてゆきたいと思ひます。まだどれだけ命があるかわかりませんが、宜しくお願ひしたいと思ひます。今日はこれで。

(文責・編集部)

第340回大倭会文化行事報告  
鳥取方面へ

平成30年10月28〜29日

ふるこの旅 因幡の国へ

岡山県真庭市 湯浅 芳郎

おとなしき駱駝は哀し砂丘の秋

ニュートンもシェークスピアも秋の色

砂の美術館英国編 (写真①)

宴会も終りて湖畔の宿の月 望湖楼

晩秋の白兔海岸波荒し (写真②)

初紅葉鳥取城址に手を合わす (表紙写真)

秋の昼笑いと涙の談話室

野の花診療所(写真③)

帰路急ぐ中国山地の秋の暮



一番奥の白衣が  
徳永進さん



## 惨殺の城と終末医療の宿

あじさい色 杉本 順一

旅行の行程表をいただいで、始めに目にとまったのが鳥取城。お城の歴史は殆んど知らなかった。娘にパソコンで資料になりそうなところを印刷してもらった。読んでいるうちに、自分なりの文化行事のイメージが出来てきたのが数日前でした。

アメリカ大リーグの決勝戦を娘たちとテレビで見ていると突然、娘が「お父さん、昇ちゃんが何か言うてる」と言う。どうやら故中村昇次さんからのメッセージらしい。「今度の文化行事に連れて行って欲しい」と言う。そらそうや、昇ちゃんはいいつも文化行事に行ってたもんな。これはある意味、予想の範囲……だった。

驚いたのは旅行の二日前、夜中に娘が「お父さ



④



野の花診療所 玄関に  
題字 鶴見俊輔さん

写真提供:青山法義さん他



⑤

ん生母さん(法主の母)が何か言うてはる」と声を掛けてきた。「野の花診療所にも死んだ人がおるやろ」とのこと。大倭にも縁の深い診療所の医師、徳永進さんばかりを気にしていたので、そちらの霊人さんたちのことは抜かっていた。生母さんにお礼を言う。こゝまでが旅行本番前のことでした。

10月28日 出発前に金剛大龍王さんに挨拶、そして法主さんには奥津城で挨拶した。皆に申せ今日行くこと 無駄ならず 大倭太加天腹は大いなる変化あり 心して行け たのむぞ」と法主さんから聞かされた。今回は法主さんのお言葉がいつもと調子が違ったので、すぐにメモした。

これから二日間の晴天を願いつつバスは出発。バスの中で傾合いをみて、前日までのメッセージを皆さんにお知らせした。大倭会文化行事の意味合いを皆で確認した次第。

バスガイドさんによると日曜なのにこんなに快適に走れるのは珍しいとのこと。早めに鳥取市内に入る事ができた。砂丘会館で、ン・早くも昼食?そんな感じだった。

一息ついてから「砂の美術館」へ。「砂で世界旅行・北欧編」美しい大自然と幻想的な物語の世界へ」とあった。砂でこんなものが出来るのかと、ただただ驚き入った。このテーマでは、来年の一月六日までらしい。元の砂に戻るとすれば、何かしらもったいない、そんな気がする美術館だった。

砂の美術館を出て、文字どおり三々五々、鳥取の大砂丘に。石川君子・岸野春子さんと三人組で、100パーセントの砂場は歩きにくく、できるだけ草の生える所を選びつつ歩いた。その距離、30、40メートル程度。これで砂丘に行ったことにした。砂丘の向こう側まで行って日本海を近くに見てきたというグループもあった。

お疲れの方もそうでない方も集合して、四列に

並んで人数確認をして、予定時間通り羽合温泉の望湖楼に向かう。車中は静か、私もこっくりさん。目的の旅館に無事到着。

10月29日 先ず鳥取県立博物館を見学。一階には自然、歴史・民俗、美術の常設展示があり、約三千点の資料が分かりやすく展示されていた。決められた時間では、とても全部を見ることはできなかった。

博物館からほど遠くない所に城山に登る入り口がある。鳥取城跡の案内パンフレットにある北ノ御門跡だったのかもしれないが、とにかく山を登り始めた。しばらく行くと階段の角度が急で、しかも段と段の高さが、訪問者向きではない。急角度の坂が続くので、途中で登るのをあきらめる人達もいた。

同人誌『火山地帯』194号にある新井翠麴氏の詩「鳥取の飢え殺し」の現場に立った訳だから、きちんと供養したい。少しずつだが登っていく。足元がおぼつかなくなった頃、「コノヘンデ エカノオ」と法主さんのお言葉あり、ほっとして数メートル右にあがったら、急に鳥取市内が一望できる広場に出た。

玄徳院さんが用意してくれた三方を中心に各自が持ち寄ったお供えの品々を並べ、お城に残る魂魄の皆々さんに対して、鎮魂慰霊の挨拶をした。お参り前に「テデ ツチヲ サワツテヤレ」とも言われていたので、祭典後、各自それぞれ土に手を触れておられた。

慰霊の旅で土や石に、手を触れるように言われた経験は、鎌倉の頼朝公の墓、京都の耳塚、明日香村の飛鳥坐神社でもあったが、今度のことで触った地こそ「タア」と「カア」の接触する腹であると気づいた。「頭幽不二 還元帰一 太加天腹」の太加天腹の意味が少し解けたように感じた。

これで大倭会文化行事の目的の一つを果たすことができました。

立派なホテルで昼食。時間厳守で少し忙しかったが、約束の一時ぎりぎりに野の花診療所を訪ねた。徳永進さんは学生時代に紫陽花邑で交流の家庭建設に参加されておられた方です。診療所では本がいつぱい詰まった図書室だという小部屋に、先生と私たち二十八人を無理やり詰め込んだような状態でお話を聞きました。

野の花診療所は終末医療の診療所ですから、重たい話があるのかなと思っていたのですが徳永さんのお人柄でしょう、あつと言う間の一時間あまりでした。終末を迎えた個々の患者さんたちが持つそれぞれに違う心の世界を感じ取って、対応してこられた心身の名医(失礼)が語ってくださいました。

法主さんはよく「人間は死んでいく時の心境が大事や」と言われていました。まさに徳永さんは顕幽不二の実践者だと思いました。

講演会後、十人ぐらいつに分かれて診療所内をぶらぶら見学させていただいた後、職員の方の案内で「こぶし館」に移動した(※徳永さんが30年程前に、交流の家みたいな家を目指して建てられた。交流の家とは大違いの白い瀟洒な建物)。たった二十八人のグループなのに、バスとの待ち合わせ場所の方に行く者、逆方向に歩き出す者とばらばらになって、近くのはずの「こぶし館」に行き付くのに思わぬ時間がかかった。

「こぶし館」の窓越しに外をのぞいて見た。あれ、ここは鳥取城のある久松山の麓ではないか(写真④) 野の花診療所屋上より見た久松山。城跡真下でのモタツキぶりも、何か意味があったのか。以前の文化行事で瀬戸内海の大山祇神社を訪れた折、帰り際、鳥居の所で振り返って最

後の挨拶をしたら「お名残惜しい」との声が返ってきたのを思い出した。ここを最後に旅は終了。今回は特別に美味しい食事と心の栄養もいっばいの楽しい旅でした。幹事の湯浅芳郎さん、溝口富士男さん、バスの運転手さん、ガイドさん、ともに旅行を楽しんでくださった皆さんありがとう。

## 野の花診療所、講演と見学

あじさい 岸野 春子

お忙しい徳永先生だが、ちゃんと待っていてくれた。紹介をしてみました。こちらでも少し参加者の紹介をしました。子供時代、大倭に来られた学生時代の徳永さんを知っていた何人かが参加して、たし、「中島健さん」と覚えてもらっていた人もいます。徳永先生の追っかけを自称するファンもいますし、「柴地(則之) 夫人です」と紹介すれば、徳永さんはぱつと立って「失礼しました」とワークキャンプの大先輩に敬意を示すような役者ぶりだし、等々、親密な雰囲気(かほ)の醸(か)まれる中で、笑い通しでお話を聞きました。紙面のゆるす範囲でかいつまんで報告とします。

▼あまり長い時間じゃございませんが、これが野の花診療所です。再来月で17年になります。17年間、診療所は生きてきて、患者さんは死にました。そこに、亡くなった人の名前を書いたボード(板)があります(写真⑤)。

一輪一輪の野の花が咲いて散るみたいに、人もそれ以上のものであれ以下のもでもない、同じ価値のものだというのが根底にあって、そんな野の花診療所です。今日は関西から、野の花がいっばい来ておられます。

診療所に入る道が細いでしょ? 500坪ほど

必要だったんですが、大きな道はやっぱり土地代が高いんですね。安かったのここを買いました。が、静かなのいいんです。

建てる時は、公民館で近隣の人に説明会をしました。亡くなった方はどこから出て行くんですかとか、やっぱり亡くなった体は穢(け)れで、忌むという感じがあるんですね。「はんたい」とか文句を言いたい人って、当然ですが居るわけです。けれども私は思うんですよ、死んだ体というのは意外に尊いと。あんな謙虚な姿はないですよ。こちらが例え蹴つても石も投げてくださいないし文句も言わない。ガンジーに言われんでも非暴力、無抵抗な態度が取れるわけです。死体そのものが持っている寛容な姿を見た時、私たち自身がお互い、普段は悪い奴だと思っていたとしても、人間の心に自ずと生じる敬意が、誰の中にもあるのではないかと思うんですが。

しかしどこで何が生きるか分かります。交流の家が反対運動に出あった時(※ガアツとぶつからないで一度壊して、しばらくして気の抜けた頃にささっとまた建てたという経緯があった)、鶴見(俊輔) 先生が「引き足のある学生運動」と言っています。色んな意見があるから、壊されてもしょうがないわなって言うたら、近所の人は壊しませんでした。

▼エリザベス・キューブラー・ロスという精神科の女医さんが、40年くらい前に『死ぬ瞬間』という本に書いたんですが、ガンの患者さんにガンだと言った時に、心の変遷として最初はそんなバカなという否認、次に自分で自分という怒り、それから抑うつ、取引、受容という様々な段階をたどるといいますね。その頃はガンだと言わないのが世界的な流れだったんですけどね。

それで、鳥取赤十字病院で働いていた時、「私

は長い間、民生委員をやってきましたからって、ガンならガンと言って下さい」という患者さんがおられましてね。しかし、ガンと言った途端にパーツと泣くんですね。まず否認、怒りって本には書いてあったなあと思ってたんですけど、そうじゃない。現実には教科書通りじゃなくて、臨床が教えてくれる、ということであるわけなんです。

この間、「下町ロケット」というテレビドラマを見ていましたら、「設計図は現場にある」という意味のことを言っていたんです。設計図はコンピュータでつくる時代ですね。でもそれは現場に行ったら途端合わんのです。そこを下町の工場の人達が細かく工夫していくという話なんです。

たまたま見たドラマでそれを聞いた時、常々感じてきたことだったのでびっくりしました。人生の最期について基準を求める、安楽死とか尊厳死とか、法律的なアプローチもあるわけです。しかし現場は別の要素なんです。ちょっと待ってと現場の違和感を、まあ、言い続けてきたつもりなんです。

▼ガンによっては早々と症状の出てるのもあれば、あまり本人を苦しませずゆったりと静かに生きるガンもあるので、その時には手遅れと人間が勝手に評価することになるんですけど、手遅れガンを選べる人もいます。私の知っている人では、伊藤ルイさんという大杉栄さんの娘さんが「もういいの」と言われて胃ガンで亡くなるわけです。早期に発見しなかった理由はルイさんなり何かがあつて、これも教科書通りではありませんでした。

15軒ほどの新聞配達をしていた知的障害のある女の子なんですけど病院に行くのが嫌いで、もう歩けんくらいになつても本人はへっちゃらでえろくないと言ってる。腸にすごいガンがあつた。カツ

丼が食いたいと言ってます。腸閉塞を起こしやしないしあんまり食べたらいいけんのですけど……お店が上等のカツ丼を作ってくれたら、本人は「まづい、いらん」と言うので、お父さんが「こんなうまいの食ったことない」とペロツと食べました。その子のお母さん、姑にはこんな子を産んでと責められたし、その介護がまた苦勞だったのに夫は感謝もしない。けどその子だけが「家を出るだか」と言つて、母親の切れそうな気持を汲み取っていたんだなあという話もされてました。で、もう亡くなるかなという時に、月見に行こう！とスタツフがベッドを屋上に出した。花火大会が見れるように屋上にベッドを通せるようにしてあるんです。本人は意識もうろうですが、ただ雲間に月が見えるというそれだけで、お母さんが「え、お月さん、わつたい（おお、すごい）お月さん。何でだあ、何でだあ」という感じになられたんですね。

「私は死を受容しています。在宅療養したい」と言われ米屋の配達を続けていた方が、だいぶ弱つた時に「この場になつてお恥ずかしゅうございませうが、生きとうござんす」と土下座して言われたこともありませう。セリフも姿勢も拍手はしませんでしたけど、これも見事だと思ひましたですね。

物事を達観するとかいう風に思える時もあるわけですが、私達の心は両方持つてる、そういうものだろうと思ひます。患者さんも自分の体の中のガンと付き合つて飽きる時もあるし、看護する側だつて優しくとせんとしけんと思つていけるけど、まあ疲れる時もあるわけです。マニュアルで決めた通りにはいかない。色んな方がおられて人の価値というものは、なかなかすごいなあと感じさせられていきます。

私なんか好きな言葉は、あきらめるつていうのがそうですね。

## 十数年振りに参加して

あじさい邑 中村 千久佐

今回の参加を決めるまでにかんりの時間を要した。と言うのも、一月に主人を亡くしてなかなか立ち直れず、でもこのままでもいけないと思う気持ちが相まって自問自答していました。

そんな中、姉（芝香須弥）が参加しようと思うけど一緒に行かない？と誘ってくれました。姉は以前から、私が少し落ち着いたら何処か旅行でもと、ずつと気にかけてくれたのです。

出発の朝、皆さんの笑顔とお天気に恵まれ、バスは鳥取方面に向かいました。昼食は豪華な海の幸一杯に満足し、砂の美術館では、巧みに作られた作品に思わず圧倒されつつ、次の鳥取砂丘に向かいました。少し肌寒かったのですが、砂の上を歩いて海の近くまで往復したら、暑かったこと暑かったこと、売店まで戻つて姉と梨のソフトクリームを食べました。

ホテルに入つて、湖上の温泉につかり、身体も心もほっこりした所で、宴の時間になり、皆さんそれぞれの素敵な喉に聞き惚れました。

翌日は今回のメインである「野の花診療所」を訪ねて、徳永進先生のお話を聞かせていただきました。お話の仕方から優しい人柄を感じることが出来ました。時間が限られていたので残念ですがもつともつとゆつくりお話が聞きたいと思ひました。ホスピスが必要になれば、お願ひします。

そして今回の楽しい旅をお世話頂きました湯浅さん、大倭からお世話になった溝口さんご夫妻に感謝申し上げます。

きっと主人も喜んで見守つてくれていたと思ひます。ありがとうございます。

# あじさい日誌

11月15日 大倭神宮月次祭。

七五三の子供達に配られました。あと邑の子供達に配られました。

また教長さんは11月13日、元気に80歳を迎えられ、神宮の先祖さんに感謝のお供え。参拝者も直会でそのおすそ分けにあずかりました。

11月17日 午後2時から拜殿で多賀俊介氏による「平和への草の根・地下水の実践をたずねて―ヒロシマでの活動から―」の

## 新年のご挨拶を申し上げます

我々の体を見て、一つの口から米も野菜も魚も水も、あらゆるものを食べるのであるが、それが血となり肉となり骨となって摂取され、残物は糞便となって放出されている。この事実を観ても、清濁併呑しても直き正しき心さえあれば、自然は、神は、これを適当にさばかれるものである。ここに初めてあらゆるものを抱擁し、人々に好き嫌いなく平等に接することができ、個人的感情に走らず平等に救済の手を差し伸ばすことができるのである。この神の心を十分味わうべきである。(昭和二十四年三月三日)

野草社『やわらぎの黙示』81頁より  
誰もが当たり前のようにすごしている時間の中に、誰もが心の向上をはかるための教材があると、教えられている気がします。

皆さんお変わりありませんか、今年も元氣にお会いしたいものです。今年もよろしくお願いたします。

大倭七十五年 元旦

宗教法人大倭教 教長 矢追 家麻呂・紫陽花邑 邑人一同

大倭会文化講演会(協賛・NP  
O法人むすびの家・FIWC関  
西委員会)。参加者32人。映像  
と多賀氏の要を得た語り口に対  
し、皆さんからの感想等で終了  
は5時頃。あと大倭会館で懇  
親会。参加者全員が何か話しま  
した。多賀氏は大倭会館泊、朝  
食は交流の家で。1月号で報告  
記事予定。

11月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は昭和42年11月23日の法  
話をお聞きしました。

3時半から大倭会館で大倭会  
幹事会が開かれました。

11月27日 九州の菊地洋一・敬  
子夫妻(宮崎県児湯郡)が来邑、  
大倭会館で一泊されました。

12月3日 河内長野市の金澤秀  
郎さんが来邑されました。

12月4日 午後2時から大倭神  
宮で金鶏祭が行われました。汗  
ばむような陽気の日でした。

12月6日 大倭神宮月次祭。

神宮の奇稲田姫命さんの鳥居  
の傾きを正す作業のために安全  
祈願の清め祓いをされました。

この日、旧須加宮寮の解体工  
事を前に、工事の安全と長年の  
感謝を込めて、清め祓いが行わ

れました。  
夜、大倭会館で邑倭の会。  
12月9日 午後、交流の家でF  
IWC定例委員会。

大倭安宿苑では  
(菅原園)

11月16日 園内でインフルエン  
ザ予防接種を受けました。

(須加宮寮)

11月16日 運動会。

11月22日 イズミヤへ買物会。

12月4日 奈良県心身障害者作  
品展の見学。

(長曾根寮)

11月19日(日) 壁に手作り大  
きなクリスマスツリー。

11月22日(特養) 誕生会で7名  
(内米寿1名)の方のお祝い。  
(茂毛路園)

11月23日 施設長との定例懇談  
会に11名の方が参加。  
(八重垣園)

12月2日 皆の協力で恒例のク  
リスマスツリーを飾りました。

### こだまこだま

青森県弘前市 石田 勝利  
毎月『おおやまと』ありがと  
うございます。8月号青山哲也  
さんの沖繩の記事の、「ノレ・  
ノレ!歌をうたって!」とい  
う韓国語が、津軽弁(アイヌ語  
の最上級の感動詞「ノレ・ソ  
レ!凄(ぞう)〜」と似ている  
と思いました。

10月号「八尾で弓削が気にな  
った 補足」で昇ちゃんと道鏡

は意外。弘前の店で昇ちゃんの  
髪を切って染めてやったことを  
思い出しました。気が合った。

訂正 広い意味では間違  
ではないのですが、11月号  
「寸紗」7ページ4段目の右  
から6行目の経絡を、経穴と変更  
します。

## あんない

\*年始祭(大倭神宮)  
1月1日(祝) 午後12時45分  
から法主興津城、紫陽花邑内の諸  
霊へご挨拶。

午後2時から大倭神宮にて。  
\*月次祭(大倭神宮)  
1月6日(日) 午後2時より大  
倭神宮にて。

\*大倭会主催第600回祝会  
1月13日(日) 午後2時より大  
倭大本宮拜殿にて。

\*大とんど  
1月14日(成人の日) 午前9時  
30分より大本宮西の齋庭にて。  
注連縄や門松等を火にあげる神  
事です。当日の天候により日時  
を変更する場合があります。

針金・プラスチック等、不燃  
物は必ずはずしてきて下さい。

\*月次祭(大倭神宮)  
1月15日(火) 午後2時より大  
倭神宮にて。

\*月次祭(大倭大本宮)  
1月23日(水) 午後2時より大  
倭大本宮拜殿にて。